

日本薬物動態学会 第18回 ワークショップ

創薬と臨床開発を促進する新技術 Biomarker から Microdosing まで

2004年4月15日(木), 16日(金) 昭和大学上條講堂(東京都品川区旗の台1-5-8)

第一日目 4月15日, 8:50~18:00

基調講演 アディポネクチンと糖尿病 東京大 門脇 孝

テーマ1 バイオマーカーの探索とその利用

ゲノムからプロテオームへ
FTMS を用いた非標的メタボローム解析 ~ Phenomenome Discoveries 社の技術 ~
CE-MSによる最新のメタボローム測定法
毒性バイオマーカー
バイオマーカーの臨床応用例
PK/PD パラメータと抗菌薬の臨床薬理学的評価
腫瘍マーカーと癌の臨床

島津製作所 西村 紀
理科研 伊藤 徹
慶応大 曾我 朋義
ファイザー 山田 弘
昭和薬科大 松本 宜明
東京女子医大 戸塚 恭一
国立がんセンター 山本 昇

テーマ2 SNPs と毒性発現

カリウムチャネルの変異と薬剤性QT延長
薬物トランスポーター遺伝子の発現制御、SNPsと体内動態個人間変動
リアノジン受容体 SNPs と悪性高熱症
GSTの多型とトログリタゾンによる肝障害

九州大 大谷 壽一
鳥取大 家入 一郎
国立国際医療センター 前原 康宏
三共 渡辺 一郎

懇親会

第二日目 4月16日, 9:00~18:00

基調講演 効率的な ADME研究 ~初期スクリーニングからヒト動態予測まで~ 摂南大 山下 伸二

テーマ3 探索 ADME/Tox

Lead Optimization ステージにおけるADMEの貢献
創薬の探索段階における代謝・動態研究
代謝阻害評価系を用いた薬物の単代謝及び多代謝推定法
Computational Toxicology の現状
医薬品開発におけるトランスポーターの重要性 ~in vitro 実験系からの定量的評価~
レポータージーンアッセイ法を用いた酵素誘導評価系について
X線結晶構造解析はP450の基質特異性を解明できるか?

塩野義製薬 吉川 剛兆
萬有製薬 千葉 雅人
大正製薬 山本 孝人
武田薬品工業 苗代 一郎
東京大 前田 和哉
東北大 永田 清
三共 畠 忠

テーマ4 新しい分析技術

LC-ARC-MS: A Novel Online Sensitive System for Metabolite Profiling and Structure Elucidation
AIM Research Dian Y. Lee

テーマ5 規制に関する話題

21 CFR Part 11 の最新動向
ブリッジングに関する話題
Improving the PK/BA quality of new drug candidates using human microdosing studies
Pharmaceutical Profiles Ian Wilding

山武 中野 健一
国立衛研 森 和彦

参加ご希望の方は、下記連絡先宛にFAXで送付先をご連絡ください。指定の郵便振込用紙を送付します。
なお、事前送金者には、参加証を(4月上旬予定)送付いたします。

最終締切: 2004年3月16日(火) 定員450名(先着順)

参加費: (テキスト代、懇親会費を含む)

日本薬物動態学会会員15,000円、非会員20,000円、学生6,000円

連絡先: 日本薬物動態学会 第18回ワークショップ係 担当: 山崎・荒木

〒113-0033 東京都文京区本郷4-2-8 フローラビル7F(財)日本学会事務センター内

TEL 03-3815-1681 FAX 03-3815-1691

詳細は右記のホームページをご参照ください。http://www.jssx.org/

代表世話人: 三共株式会社 池田 敏彦

主催: 日本薬物動態学会